

第36回大会シンポジウム——ワイルドと世紀末ロンドンの諸相

喧嘩のあとさき ——ワイルドと1890年代の出版業界

庄子ひとみ

自らの私生活をも宣伝媒体として活用し、時代の寵児ともてはやされたワイルドのキャリアにおける全盛期とは、1890年代の前半が該当する。クイーンズベリー裁判における有罪確定、服役を経て1895年以降ワイルドに対する大衆の態度は一変したが、それは出版業界も同様である。The Bodley HeadとLeonard Smithersは、ワイルドの才能に魅せられ出版を積極的に請け負った代表的な出版社だが、彼らの著者ワイルドとの公私にわたる関わり方、およびビジネスモデルを検証してみると、夫々の思惑および事業内容の変遷にいたるまで対照的である。ワイルド作品の出版に密接に関わった彼らの仕事について1895年を転換期として捉え比較しつつ、文学作品の受容を語る際に軽視されがちなpublisherの存在に注目してみたい。

1. ボドリー・ヘッド社

全盛期のワイルドの著作の大半を積極的に手がけた出版社と言えばボドリー・ヘッド社である。Elkin Mathews (1851-1921) 及びJohn Lane (1854-1925) によって1887年にロンドンのVigo Streetに設立。社名の由来は、OxfordにあるThe Bodleian Libraryの創設者、Sir Thomas Bodley (1545-1613) がマシューズと同じExeter出身の人物だったことによる。ボドリー・ヘッド社を立ち上げる際、マシューズはすでに稀少書や古書を扱う書店Bodley Library Catalogueを経営していたが、書物の収集を通して知り合ったレインと出版業を共同で行うことには意起業するに至った。ボドリー・ヘッド社はCharles Rickettsの挿絵によるワイルドのPoems (1892) やThe Sphinx (1894)、Aubrey Beardsley挿絵の英語版Salome (1894) に代表されるように、装丁にも挿絵にも趣向を凝らしたワイルドの著作を数多く

出版している。Weedonの調査によれば出版に使用される紙の平均金額が1880年頃から急激に下落しており、この背景としては様々な要因が推測可能で、印刷技術の向上で廃棄処分に成る用紙の割合の減少や、交通網の発達で素材と成るパルプ原料の入手ルートがより迅速で容易になったという理由も考えられるが、ワイルドも不快感を示していたニュー・ジャーナリズムの台頭の余波、読者層の拡大により、早く安価に印刷物を流通させる為、質の悪い紙が使われる機会がふえたことも一因ではと推測している (67)。そんな状況下でもボドリー・ヘッド社は良質な印刷製本技術で定評のあったChiswick Pressに依頼し、またThe Rhymers' Clubの詩集に代表されるように、若い才能の発掘、紹介にも意欲的だった。定期刊行物ではHenry Harlandを編集に迎えたThe Yellow Book (1894-1897) がある。

ワイルドはボドリー・ヘッド社に出版を任せることが多かったものの、書簡を参照すると、少なくともレインとはあまりよい関係ではなかったようである。ワイルド自身雑誌の編集長をしていた経験もあり、出版ビジネスについても細かく意見したこともあるが、お互いに面倒な相手だと思っていた節は多々見受けられる。ワイルドは仏語版*Salomé* (1893) の英国内の出版について本契約を直前まで進めなかつたレインがあわてて電報をうつてきた際には「レインの度重なる口先だけの約束や言い訳、謝罪にもううんざり」とこぼしている (Hart-Davis 327)。

1894年の初頭までボドリー・ヘッド社はワイルドの作品を出版する主要な出版社として機能していたが、1894年9月にマシューズが去って以降、レインはワイルド周辺の状況変化にさらに慎重になり、ワイルド逮捕の直前に出版されたA Woman of No Importanceには、社名ボドリー・ヘッドだけで、ワイルドの著作に刻印される自分の名前の印象を読者に残すまいとするかのように、「ジョン・レイン」の名前を削除している。これは彼がボドリー・ヘッド社をマシューズと共に建ち上げた際、そのビジネスが軌道にのるまでは鉄道駅での会社勤めをやめず、また自分の名前が表立って使用されるのをさけていた慎重さを裏付ける態度でもあるだろう。ワイルド逮捕の余波として、彼が逮捕時に抱えていた黄色い装丁の本が新聞に掲載された扇情的なコピーゆえにボドリー・ヘッド社の雑誌『イエロー・ブック』だと世間で広く誤解された件でも、見当違いな批判が集中するなか、最も迅速に反応し行動したのはレインだった。ワイルドの英語版『サロメ』の挿絵を描いていたビアズリーとワイルドの密接な関わりを疑わない読者の苦情を鎮めるべく、『イエロー・ブック』に多大な貢献をしていたビアズリーを解雇。非情で冷徹な判断であると同時に、危機管理能力に長けた経営者の決断と解釈することも出来る。『イエロー・ブック』が世紀末デカダンスを代表する雑

誌になりえたように、ボドリー・ヘッド社は出版物によって流行を作り出す立役者の存在でもあったが、これは積極的にあたらしい才能を見いだし採用する一方で、世論の動向に敏感に反応するレインのバランス感覚によるところが大きいのではないだろうか。金銭面が絡む契約毎には堅実で慎重であり、その経営管理能力の一端はボドリー・ヘッド社の帳簿(Nelson, Bodley 318-323)にも確認できる。1894年6月の記録では、当時人気作家であったワイルドへの高額な支払いと、まだ無名の若手詩人達から構成されるライマーズ・クラブへの支払い内容の差異が対照的であり、製本および印刷にかかる経費の詳細は、精力的に多種多様な書物の出版を手がけながら、常に効果的に利益を生み出す経営者であったレインの手腕を提示してくれる。

マシューズとレインの意見の相違により1894年の9月にパートナーシップ解消後、ボドリー・ヘッド社の事業はレインに引き継がれた。レイン自身の仕事はボドリー・ヘッドという名前を度々手放した後も絶えることなく甥にひきつがれ、拡大をつづけ、現在のベンギン・グループになっている。一方、マシューズはレインと決別した1894年に新しい出版社を設立し、木版印刷の挿絵も特徴的な児童書の出版に力を入れた。他の出版社に拒否されつづけていたJames Joyceのデビューアルバムである詩集*Chamber Music* (1907) 出版を Arthur Symons の強い推薦で決定したように、Ezra Pound ら、世紀末デカダンスというよりは20世紀初頭のモダニズムを担う詩人達の作品をいち早く、数多く刊行し、規模は小さいながらも「詩の出版社」として知られるようになった。マシューズはボドリー・ヘッド社時代より単独で積極的にワイルドの作品出版を手がけることはなく、全盛期のワイルド作品に眼をつけ、出版に積極的だったのはレインだった。そして、1894年の後半以降速やかにワイルドとの関わりを断ったのもレインであり、その後の仕事が世紀を超えて長く続いた事実は、レインが「経営者としての出版者」たる才能に長けていた証明なのかもしれない。

2. レナード・スマザーズ

二年間の服役を終えたワイルドの*The Ballad of Reading Gaol* (1898) 出版を快くひきうけたのは、スマザーズだった。地元Sheffieldでの弁護士のキャリアを早々に捨て、趣味の古書収集から発展し、官能的小説やポルノを含めた稀少書を扱う書店をロンドンに開業した彼は1884年にSir Richard Francis Burton訳『千夜一夜物語』を出版。Bernard Quaritch のように、親しみを込めてスマザーズを「ロンドンで最も書物に通じた出版者」(Sims 1) と評する者もいたが、紳士が行き交う Old

Bond Streetに店を構えながら、国内外の希少な猥褻本の在庫は突然の警察の摘発対応に備えて常にトランクに陳列、いつでも逃げ出せるようにしておき、店先に「ポルノはお手頃にもとめられる時代に成りました」と貼っていた等、真偽が定かでない「スマザーズ伝説」も存在していた(Nelson, Smithers 52)。ワイルドとの最初の接点はスマザーズが個人的に進呈した本にワイルドが感謝する1888年の手紙が残っているため、1890年代よりも前なのは確かだろう。1888年、Harry Sidney NicholsとともにErotica Biblion Societyを設立し、ワイルドが執筆したとされる*Teleny, or the Reverse of the Medal* (1893) を出版。ワイルドもこの好色家で国内外の古書にくわしいスマザーズに“the most learned erotomaniac in Europe”(Hart-Davis 631) という称号を与えているが、業界でも異色な存在だったことは想像に難くない。1895年にはワイルド逮捕にまつわる風評被害で危機に陥った『イエロー・ブック』の状況をあえてチャンスとみなし、これを凌ぐ雑誌を作るべく、文芸編集アーサー・シモンズ、美術編集に『イエロー・ブック』を解雇されたばかりのビアズリーを迎えて雑誌*The Savoy* (Jan-Dec, 1896) を刊行したが、一年で廃刊に追い込まれている。「誰も尻込みして手を出さないような本を出そうじゃないか」と常々口にしていたというスマザーズの野心をそのまま実現したような挑戦でもあった(O'Sullivan 90)。出版業を続ける上での収支はどうなっていたのか、スマザーズの場合にはボドリー・ヘッド社のように正式な帳簿も残っていない為、スマザーズが出版した書物の印刷を請け負っていた印刷所の記録(Chiswick Press Record)から書籍の小売価格や部数、印刷及び製本費用の一部を把握するしかない。執筆者に対する支払いは、若手にも高額を気前良く支払っていたことがスマザーズと仕事をしたイエイツ、ビアズリー、ダウスンらの日記や書簡から伺えるが、1900年に破産宣告を受ける直前はかなり困窮し、ワイルドへの支払いも遅れている。ワイルドの他作品の出版の許可を得ようとしても、一度支払いが遅れたことがあったこともありよい返事がもらえず、それでも「出版したい本を出版する」という欲望をおさえきれなかったのか、ワイルドの死後にはとうとう海賊版にふみきった。海賊版であるにも関わらず装丁に力を注いだ為、中には正規版よりも美しい仕上がりに成り、現在も高値で取引されている本も存在する。The Harlot's House (海賊版1904) はAlthea Gyles (1868-1949) に挿絵を依頼、Nelsonは「美しいデザイン、上質の紙、繊細なタイポグラフィー、スマザーズは破産と家族離散という、ただひたすら転落の一途をたどっている最中にあっても、美しい本を出版したいという思いをたちきれなかったのだろう」と評している。

3. おわりに

アーサー・シモンズは *A Study of Oscar Wilde* (1930) でワイルドの作品論を展開するにあたり、ワイルドの才能を排除した当時の読者の偏狭さを非難するエッセイ “Art and the English Public” からはじめており、同時に、異なる個性と才能が各々違う方向をめざしつつ混在するヴィクトリア朝世紀末の文芸空間の多様性を「だれかひとりの作家をえらんでこの時代を特徴づけようなどとしたら、あとはすべて例外ということになってしまふ」(10) と描写し認めている。そしてそれは文筆家達だけにあてはまることではないだろう。生氣溢れる雑種性にみちたヴィクトリア朝世紀末文学の出版事情とその隆盛を語る際に、執筆者達にまけない個性を発揮した出版者達の存在を無視することはできない。彼らは、作品を発表する場を待ち望む才能のスカウトであり、効果的に宣伝、流通させるプロデューサーでもあったのだから。ビジネスとして利益をあげ組織として巨大化させる野心と冷静さを併せ持つ起業家の側面が強いレインがいる一方で、採算度外視で若い才能をサポートするパトロンの役割を果たし自らは破滅したスマザーズの例が示すように、書物の出版への情熱と思惑をそれぞれの形で実現した彼らは、その文筆で読者を魅了したワイルドの人生と同様に劇的な人生の体現者であり、文学の出版の歴史において語られるべき存在なのだろう。

引用文献

- Hart-Davis, Rupert. ed. *The Letters of Oscar Wilde*. London: 1962.
- May, J. Lewis. *John Lane and the Nineties*. London: John Lane The Bodley Head, 1936.
- Nelson, James G. *The Early Nineties: A View from the Bodley Head*. Cambridge, Massachusetts: Harvard UP, 1971.
- . *Publisher to the Decadents: Leonard Smithers in the Careers of Beardsley*, Wilde, Dowson. Pennsylvania: The Pennsylvania State UP, 2000.
- Sims, George. “Leonard Smithers: A Publisher of the Nineties.” *The London Magazine* 3(September 1956) 33-40.
- Symons, Arthur. “Art and the English Public.” *A Study of Oscar Wilde*. London: Charles Sawyer, 1930.
- O’Sullivan, Vincent. *Aspects of Wilde*. NY: H. Holt, 1936.
- Weedon, Alexis. *Victorian Publishing: The Economics of Book Production for a Mass Market, 1836-1916*. Aldershot: Ashgate, 2003.